



# 大樹のこころ

## バケツ稲

校舎改修工事が着々と進んでいます。新しい教室やきれいな外壁ができることは、嬉しい限りです。その反面、工事によって子供たちの生活に不自由さが出てきていることは否めません。学年の栽培園も改修工事によって、利用できなくなっています。しかし、そこはさすがの先生方。できないと諦めるのではなく「できることは何か」を考えてくださっています。

今日は、おかざき農遊会の皆様を講師にして、特別支援クラスが「バケツ稲」作りを行いました。農遊会の方々には、法性寺ネギや大豆の栽培などで、これまでもお世話になってきていました。けれども今年度は前述したように学年の栽培園が使用できません。そこで「バケツ稲」でお米を栽培しようということになりました。先生方の知恵を絞ったの取組です。講師として来校されたのは農遊会の方だけではありません。岡崎市農務課の方やJA おかざきの方もいます。農務課の方に話を聞くと「岡崎市は有機栽培を推進していて、このバケツ稲も有機なんです」「バケツ稲づくりを岡崎市・農遊会・JA が協賛して各学校を回っている」とのこと。作業場の近くには「オーガニックシティおかざき」のポスターが掲げられています。本校の子供たちの活動が、市の農務事業の推進に役立っているとは驚きです。

バケツ稲作りで大切なのは「土づくり」。最初は自分専用のバケツづくりです。一人1個ずつ与えられたバケツに、子供たちは自分の名前シールを貼っていきます。この活動によって「自分だけのバケツ」が完成。栽培への責任感と意欲がぐっと増していきます。そして土づくりです。子供たちは自分専用のバケツに黒土・赤土・白土を入れ、そこに水や肥料を加えていきます。そして手を入れてかき混ぜると、真っ黒な泥土ができあがります。かき混ぜる活動に子供たちは大喜びです。手を真っ黒にしながらも「チョコレートみたい」とはしゃぐ声が聞こえてきます。作業をしながら「僕はお米が大好き」「校長先生、お米ができたらわけてあげようか」などと嬉しい言葉も飛び交います。

今日の活動は土づくりまで。田植えは6月頃に行うのだとか。子供たちの夢を乗せたバケツ稲が、どのように成長していくのか、楽しく見守る日々が始まりそうです。



韓国の文化を学ぶ光学級の入学式が5月13日(月)に行われました。今年は来賓として大韓民国領事館の総領事がお越しになられました。子供の頃「マジンガーZを観ていた」という総領事。とても気さくな方で和やかな入学式となりました。式後には総領事から子供たちに入学祝いプレゼント。喜ぶ子供の姿に、こちらも笑顔になりました。